

# 株式会社 JA 食糧さがを推薦した 佐賀県 多久市 横尾 俊彦 市長に聞く



よこお としひこ  
**横尾 俊彦** 市長

## 経歴

昭和55年4月～ 松下政経塾に1期生として入塾  
平成9年9月～ 現職



## ふるさと融資の概要

事業者	株式会社 JA 食糧さが
事業名	農産物処理加工施設新設事業
実施年度	平成26年度
設備投資額	1,462百万円
貸付額	401百万円
雇用増	28人

## ●良質な県産米を活用した製品づくりに尽力

佐賀県は昭和40年代に米生産日本一になった歴史がある米どころで、佐賀のお米は各地域の気候・風土に適した特色ある品種が栽培されており、「米の食味ランキング」(一般財団法人日本穀物検定協会)でも10年以上にわたり最高位の良質米評価を得ています。実際の検査対象米の中には、多久市内の水田(棚田)で栽培されたものもあります。

株式会社 JA 食糧さが様は、農家と消費者を結ぶ産地の精

米工場として、生産者、事業者、消費者の皆様の信頼に応える安心安全な製品づくりに精力的に取り組まれています。

生産体制充実や顧客ニーズ対応のため、県内事業所を統合して多久市北部工業団地に平成26年12月に事務所・工場を移転進出されました。最高レベルの機械設備も導入されて積極的な経営を展開されています。進出から令和6年3月までに33名を雇用され、うち8名は地元出身者を雇用されるなど、雇用創出にも積極的に貢献いただいています。

## 特産品・観光情報 ※写真は全て多久市提供



### ▲多久聖廟

儒学の祖・孔子を祀る孔子廟建立を発願して1708年に創建された国指定の重要文化財。毎年、春と秋に、県の重要無形民俗文化財に指定されている多久聖廟積菜が行われている。

### ▶多久市ウォールアートプロジェクト

多久駅周辺の中心市街地に明るさと賑わいをつくる取り組み。現在48か所が身近に鑑賞でき、令和8年度までに100か所を目指している。



### ▼多久市まちづくり交流センター「あいぱれっと」

多久駅周辺の賑わいづくりの拠点として平成26年度にオープン。ハローワーク等の公共施設のほか、ボールドリングスペースや会議室も完備している。



## ● “縁起米”を通じて地域の学生を応援

九州は焼酎文化と思われがちですが、佐賀は日本酒がメインです。それもそのはず、先述のように米産地だからです。佐賀県を代表する米である「さがびより」「夢しずく」「ひのひかり」の3銘柄があり、それぞれ「合格びより」「合格の夢」「合格の光」と命名され、社長直々肝入りの熱意を込めた独自の包装パッケージをつくられています。そこには学問の神様ともいわれる孔子を祀った多久聖廟(孔子廟)を軸にデザインされ、論語の章句を記載したオリジナル商品「縁起米」として製造されています。

同社ではこの「縁起米」を受験に臨む多久市義務教育学校9年生(中学3年生)や佐賀県立多久高等学校3年生へエールを込めて寄贈されています。令和3年度からは多久市ふるさと納税の返礼品としても出品されるなど、「第5次多久市総合計画」の基本目標にある「活力ある稼ぐまち」の実践に向け、本社移転による雇用創出、経済の活性化に大きく貢献されています。

## ● 「アートのまち・多久」として新たな賑わいを創出

当市の最大の特徴ある地域資源は多久聖廟です。学問を重んじた第4代領主・多久茂文公は1699年に学問所を開き(のちの東原庁舎)、さらに儒学の祖・孔子を祀る孔子廟建立を発願して1708年に創建しました。朱色に染まった瀟洒な趣の廟で、国の重要文化財でもあります。

市内の児童生徒は教育課程で「多久学」を学び、論語教育や小中連携による学力向上を図り、近年はICT活用環境整備にも努め、文教都市としての展開を進めています。

また、中心市街地にウォールアートプロジェクトも展開しており、平成27年12月にスタートし、現在48の作品を身近に鑑賞でき、目標は100です。

さらに、令和4年度には、多久市出身で米国を拠点に活躍中の画家・池田学氏による「動物画シリーズ」51全作品を収蔵し、アート企画展を開催しました。現在その一部を市役所ロビーで展示も行い、「アートのまち・多久」としても新たな賑わい創出にも取り組んでいます。



### ▶ 純米大吟醸多久

多久の有志により造られた最高の純米大吟醸。華やかな香りと口に含まれたい時のフルーティな甘み、芳醇な味わいが好評です。長く続く余韻をお楽しみください。



## // 多久市の概要 //

本市は県のほぼ中央に位置し、四方を緑豊かな山に囲まれた盆地であり、市の中央部に広がる平坦地には、一級河川である牛津川をはじめとする大小の河川が大地を潤し、緑豊かな田園地帯を形成しています。

長崎自動車道多久インターチェンジ、国道203号線、JR唐津線を擁しており、県内各都市はもちろん、福岡市や長崎市とも直結していることから、県内だけでなく九州北西部における拠点性を有するまちといえます。アクセスの良さを活かした魅力的なまちづくりを今後も促進していきます。

平地、中山間地、山間地といった変化に富む地形を生かした多彩な農業が行われており、米麦を中心とした水田作物、みかん、びわ、桃などの果樹や畜産品など多様な特産品に加えて、「女山大根」などの伝統野菜や「桐岡なす」、「青しまうり漬」など地域ブランドの注目度の高まりで、新たな高付加価値化も取り組んでいます。



人口:17,807人  
面積:96.56km<sup>2</sup>



<https://www.city.taku.lg.jp/>